

令和２年度 事業報告

令和２年度は、第５期地域福祉実践計画の最終年度となり、コミュニティーソーシャルワーカーや生活支援コーディネーターを中心とする地域福祉推進のため、事業検証を行いながら、更なる進展のため第６期計画の策定作業を行ってきました。

世界的にコロナウイルスの感染が拡大し、未知のウイルスに翻弄される１年となり、本会においても、利用者、職員を守るべく感染防止対策に注力してまいりましたが、事業の中止や縮小をしなければならない状況が長く続き、地域でも見守り活動の自粛を余儀なくされる状況が続きました。

このような中、町内会や老人クラブの方々等へ「社協発！おうちで楽しめーる便」を提供し、感染予防のため自宅へ閉じこもりがちとなる住民宅へ配布することで、見守りや地域のつながりを絶やさない取り組みを行いました。

また、コロナウイルスの影響により休業や解雇となったため、一時的に生活が困窮した方に対し、緊急小口資金や、総合支援資金の貸付を行ってきました。

介護事業等においても訪問を最小限にする等、感染対策を行いながら一人の感染者も出すことなく、事業を継続することができました。

感染拡大により、思うような事業展開ができない中でも、「見守り活動ガイドブック集」の発行、「犬猫一時預かり事業」や新たに勇払地区における「移送サービス事業」を、市民参加型の事業として取り組みをスタートさせることができました。

また、成年後見支援センターでは、中核機関化、広域化に向けて市や裁判所との懇談や東胆振の各町との意見交換を行い、令和４年度設置に向けた準備を引き続き行ってきました。

このように、コロナウイルスの影響を受けながらも、社協の大きな使命である地域福祉活動の維持向上のため、次期計画に繋がるよう事業展開してまいりました。